

令和8年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 11	公益目的事業 19
主査名	原田 昇 東京大学名誉教授	
研究テーマ	Link & Place に基づく新しい道路と街路の段階構成論とその適用	
<p>2007年にPeter Jones氏が提案したLink&Placeに基づく街路のマトリックス分類は、2013年のロンドン市の実務導入に遅れて、2019年には国交省のストリートデザインガイドラインに取り入れられた。その後、わが国でも多くの実践事例があり、新たなストリートタイプとして定着した感がある。しかし、提案者のPeter Jones氏が第二のBuchanan reportと指摘した、街路の新しい段階構成論とそれに基づく街路ネットワーク構築に関しては、特定地区への適用に限られた状況にある。</p> <p>この理由は、人口密度や都市構造の違いに加えて、提案の本質が十分に理解されていないことと新たな街路ネットワーク論の適用方法が確立していないことにあると考える。</p> <p>そこで、本研究は、ブキャナンレポートを再評価し、Peter Jones氏の新たな段階構成との相違を明確に理解し、新たな段階構成の適用事例を整理してその適用方法を整理することを目的とする。</p> <p>具体的には、以下の四項目の実施を予定している。</p> <ol style="list-style-type: none">1) ブキャナンレポートの再評価 原文(https://trafficintowns.uk/)を再読し、太田勝敏名誉教授を中心に議論する。2) Peter Jones氏による新たな道路の段階構成(ストリートタイプ)の提案の経緯と内容確認 提案に係るARTIST project report、ロンドン市とTfLのレポートの内容整理と議論3) わが国における段階構成論への初期の取り組み事例の整理と議論 団地内歩車共存道路の計画設計指針・同解説(1986)で提案された歩車共存道路の段階構成論と適用事例としての汐見台NTの計画内容の確認と歩車共存道路の計画手法(1986)で論じられた道路の段階構成論の確認など。4) 新たな街路ネットワーク論の適用方法の整理 事例整理に基づいて、Link & Spaceの適用方法(Link機能の段階評価、Space機能の段階評価、それらの重ね合わせによる現状評価とその改善案の提案方法)を整理する。 事例整理の対象としては、Birmingham市等の英国の適用事例と原宿表参道や沼津市など、わが国の適用事例を予定している。 英国とNACTOの適用事例に関する論文があり、表参道で取組中の三浦詩乃准教授を中心に議論する。		